http://decfamily.p1.bindsite.jp/2013NEW/

We 25R

No.316　14/01/20

センター国語

土・日に行われたセンター試験、君たちもチャレンジセンターなどで問題を目にしたことだろう。さて、感想はいかに？　国語について簡単に解説してみよう。

ちなみに、私は日曜日の午前中、新聞に発表された問題を見ながら解いてみたが、満点である（イバル！）。が、実は時間は100分くらいかかっていると思う。ちなみに、２番の岡本かの子の小説「快走」については、土曜日の時点でネット上で話題になっていたから、事前に青空文庫からダウンロードして読んでいたにもかかわらずである。やれやれ…。

＊

１番の評論は、非常にオーソドックスな出題で、選択肢も特に難しいモノはなく、間違いを消すという定番の解き方をしなくても、ずばり正解が選べるレベルの選択肢になっている。唯一、問６の（ｉ）は本文と読み比べながら判断をしなければならず、面倒くさい問題といえようか。

２番の小説は、本文の最後に「おほほほほほほほほほほ」「あはははははははははは」という大笑が登場し、しかもそこが設問にもなっているということで、受験という緊張感のある最中に「おほほほ」「あははは」とは何事かみたいなことがネットで話題になった問題であるが、問題そのものは、登場人物の兄、妹、両親の心情を問うという、これまたオーソドックスな問題であったと思う。個々の選択肢については、私は１番の評論よりも迷う部分があったと思うが、それでも、充分に正解を選べるものになっている。この問題も、問６がいちいち本文と対比させながら検証しなければならず面倒くさいが、小説のタイトルである「快走」が、娘の「快走」であるとともに、両親の「快走」でもあることに気づけば⑥が選べて、あともう一つだから何とかなるのではないかと思う。

３番の古文は難問である。和歌がなくてラッキーだし、源氏をずっ～と学習してきた日比谷生にとっては（しかも、この部分のあらすじは説明してある）「よし！」という印象があったかも知れないが、どっこい源氏は源氏で、やはり具体的な問題は難問になっていると思う。東進は「本文前半の読解に関わる問３は標準的問題。後半の会話部分の内容読解に関わる問４・問５が、本文との照合を精密にしなくてはならず、やや難しい。問６は、近年頻出であった「表現」の問題から内容合致問題へと変わり、選択肢も１行短くなったために解きやすくなった。」と分析しているが、問４以降はどれも難問で、特に問５は、敬語の知識をしっかり活用して主語を明確化しながら読み比べないと正解できない。また、問６も迷うものになっている。

４番の漢文は、訓点がついていない部分が多いが、ちょっと風変わりなのは傍線Ａだけで、あとのＢ・Ｃは授業で白文練習をしていれば出来るレベル。最後のＤも、この文のまとめになっているから、逆にこの文章のイイタイコトをたどれていれば、何とか正解できるのではないかと思う。ただ易しくはない。

予備校の予想だと、東進と代ゼミが「やや易化」、駿台と河合が「昨年並み」。１・２番は取り組みやすくなったが、古典は昨年並みかやや難化。全体としては昨年並みか。